

景気ウォッチャー調査

Economy Watchers Survey

平成 28 年 11 月調査結果

平成 28 年 12 月 8 日



内閣府政策統括官
(経済財政分析担当)

今月の動き (2016年11月)

11月の現状判断DI(季節調整値)は、前月比3.2ポイント上昇の52.5となった。

家計動向関連DIは、小売関連、住宅関連等が上昇したことから上昇した。企業動向関連DIは、製造業等が上昇したことから上昇した。雇用関連DIについては、低下した。

11月の先行き判断DI(季節調整値)は、前月比1.6ポイント上昇の53.0となった。

家計動向関連DI、企業動向関連DI、雇用関連DIが上昇した。

なお、原数値で見ると、現状判断DIは前月比2.4ポイント上昇の48.6となり、先行き判断DIは前月比0.1ポイント上昇の49.1となった。

今回の調査結果に示された景気ウォッチャーの見方は、「着実に持ち直している。先行きについては、海外情勢の不透明感への懸念がある一方、設備投資や求人増加の継続等への期待がみられる」とまとめられる。

目 次

調査の概要	2
利用上の注意	4
D I の算出方法	4
調査結果	5
I . 全国の動向	6
1 . 景気の現状判断 D I (季節調整値)	6
2 . 景気の先行き判断 D I (季節調整値)	7
(参考) 景気の現状判断 D I ・先行き判断 D I (原数値)	8
II . 各地域の動向	9
1 . 景気の現状判断 D I (季節調整値)	9
2 . 景気の先行き判断 D I (季節調整値)	9
(参考) 景気の現状判断 D I ・先行き判断 D I (原数値)	10
III . 景気判断理由の概要	11
(参考 1) 景気の現状水準判断 D I	24
(参考 2) 区分変更に伴う参考 D I 等	25

調査の概要

1. 調査の目的

地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の範囲

(1) 対象地域

北海道、東北、北関東、南関東、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の11地域を対象とする。各地域に含まれる都道府県は以下のとおりである。(なお、平成12年1月調査の対象地域は、北海道、東北、東海、近畿、九州の5地域、平成12年2月調査から9月調査までの対象地域は、これら5地域に関東を加えた6地域である。)

地域	都道府県	
北海道	北海道	
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟	
関東	北関東	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
	南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重	
北陸	富山、石川、福井	
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口	
四国	徳島、香川、愛媛、高知	
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島	
沖縄	沖縄	
全国	上記の計	

平成28年4月調査より、南関東のうち東京都分の別掲を開始。

平成28年10月調査より、「甲信越」(新潟、山梨、長野)、「東北(新潟除く)」、「北関東(山梨、長野除く)」を参考掲載。

(2) 調査客体

家計動向、企業動向、雇用等、代表的な経済活動項目の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種の適当な職種の中から選定した2,050人を調査客体とする。調査客体の地域別、分野別の構成については、「IV. 景気ウォッチャー(調査客体)の地域別・分野別構成(52頁)」を参照のこと。

3. 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断(方向性)
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断(水準)

4. 調査期日及び期間

調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月25日から月末である。

5. 調査機関及び系統

本調査業務は、内閣府が主管し、下記の「取りまとめ調査機関」に委託して実施している。各調査対象地域については、地域ごとの調査を実施する「地域別調査機関」が担当しており、「取りまとめ調査機関」において地域ごとの調査結果を集計・分析している。

(取りまとめ調査機関)		三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
(地域別調査機関)	北海道	株式会社 北海道二十一世紀総合研究所
	東北	公益財団法人 東北活性化研究センター
	北関東	株式会社 日本経済研究所
	南関東	株式会社 日本経済研究所
	東海	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
	北陸	一般財団法人 北陸経済研究所
	近畿	りそな総合研究所株式会社
	中国	公益社団法人 中国地方総合研究センター
	四国	四国経済連合会
	九州	公益財団法人 九州経済調査協会
	沖縄	一般財団法人 南西地域産業活性化センター

6. 有効回答率

地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率	地域	調査客体	有効回答客体	有効回答率
北海道	130人	114人	87.7%	近畿	290人	245人	84.5%
東北	210人	194人	92.4%	中国	170人	163人	95.9%
北関東	200人	181人	90.5%	四国	110人	89人	80.9%
南関東	330人	315人	95.5%	九州	210人	184人	87.6%
東京都	148人	141人	95.3%	沖縄	50人	37人	74.0%
東海	250人	231人	92.4%	全国	2,050人	1,850人	90.2%
北陸	100人	97人	97.0%				

(参考) 調査客体数及び対象地域の推移

調査開始(平成12年1月)以降の調査客体数及び対象地域の推移は以下のとおり。

- 平成12年1月調査は500人(北海道、東北、東海、近畿、九州)
- 平成12年2～9月調査は600人(北海道、東北、関東、東海、近畿、九州)
- 平成12年10月～平成13年7月調査は1,500人(全国11地域)
- 平成13年8月調査以降は2,050人(全国11地域)

利用上の注意

1. 分野別の表記における「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、企業動向関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断、雇用関連業種の景気ウォッチャーによる景気判断を示す。
2. 表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、計と内訳は一致しない場合がある。

D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、D Iを算出している。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

調 査 結 果

I . 全国の動向

- 1 . 景気の現状判断D I (季節調整値)
- 2 . 景気の先行き判断D I (季節調整値)
(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)

II . 各地域の動向

- 1 . 景気の現状判断D I (季節調整値)
- 2 . 景気の先行き判断D I (季節調整値)
(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)

III . 景気判断理由の概要

- (参考 1) 景気の現状水準判断D I
(参考 2) 区分変更に伴う参考D I 等

(備考)

- 1 . 「III . 景気判断理由の概要 全国 (11 頁) は、「現状」、「先行き」ごとに区分した3分野 (「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」) に該当する地域の特徴的な判断理由を選択し、5つの回答区分 (「良」、「やや良」、「不変」、「やや悪」、「悪」) ごとに判断が良い順に掲載した。
- 2 . 「現状判断の理由別 (着目点別) 回答者数の推移」 (12 頁) は、全国の「現状判断」の回答のうち3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数の多い上位3区分 (雇用関連は上位2区分) の判断理由として特に着目した点について、直近3か月分の回答者数を掲載した。
- 3 . 13 ~ 23 頁は、各地域の景気判断理由の要約である。そのうち、「現状」欄は、地域の「現状判断」の回答のうち、3分野それぞれについて、5つの回答区分の中で回答者数が多かった上位3区分 (雇用関連は上位2区分) を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それら上位回答区分の中における代表的な回答である。「その他の特徴コメント」欄は、「判断の理由」欄に掲載されたもの以外で、特徴と考えられるコメントを掲載した。また、「先行き」欄は3分野それぞれについて、5つ回答区分の中で回答者数が多かった上位2区分 (雇用関連は上位1区分) を上から順に掲載している。掲載されている各コメントは、それらにおける代表的な回答である。なお、「その他の特徴コメント」欄は「現状」と同様である。

I. 全国の動向

1. 景気の現状判断D I (季節調整値)

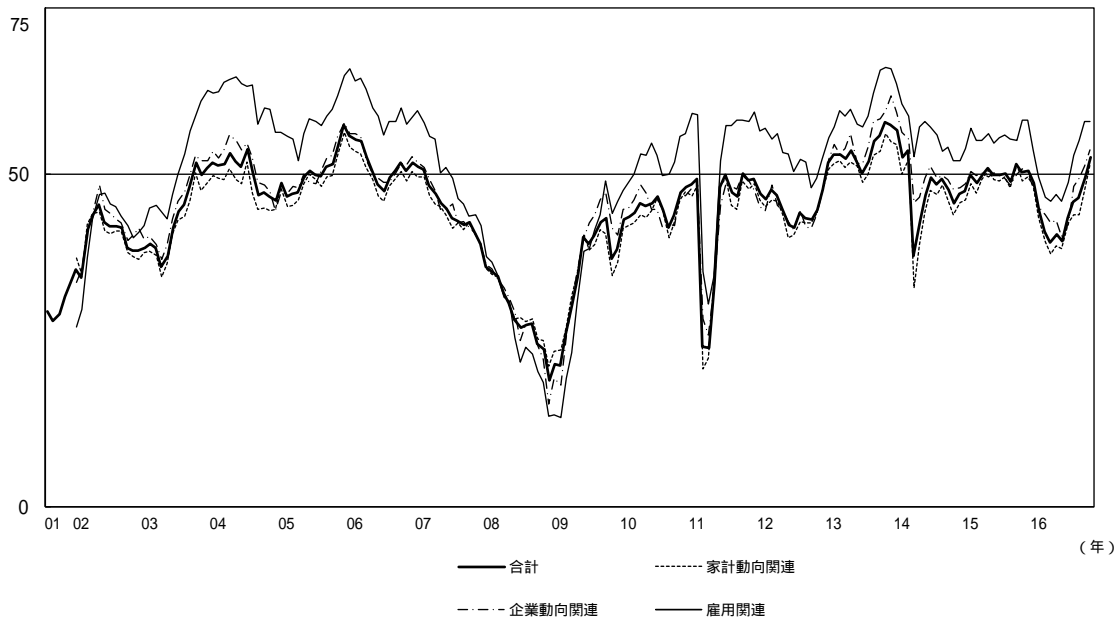
3か月前と比較しての景気の現状に対する判断D Iは、52.5となった。雇用関連のD Iが低下したものの、家計動向関連、企業動向関連のD Iが上昇したことから、前月を3.2ポイント上回り、5か月連続の増加となった。

図表1 景気の現状判断D I (季節調整値)

(D I)	年 2016							(前月差)
	月 6	7	8	9	10	11		
合計	39.8	43.2	45.7	46.3	49.3	52.5	(3.2)	
家計動向関連	38.7	42.6	43.8	43.9	47.4	51.3	(3.9)	
小売関連	36.4	41.2	41.7	42.2	47.0	51.8	(4.8)	
飲食関連	40.2	42.8	44.2	43.3	44.7	49.1	(4.4)	
サービス関連	41.8	45.0	47.2	47.2	49.5	51.0	(1.5)	
住宅関連	43.3	44.6	47.9	45.9	44.7	50.9	(6.2)	
企業動向関連	40.6	42.3	48.0	49.3	51.1	53.6	(2.5)	
製造業	40.4	41.7	46.6	49.0	50.8	53.6	(2.8)	
非製造業	40.6	43.1	49.4	49.8	51.5	53.7	(2.2)	
雇用関連	45.9	48.7	52.7	54.9	57.9	57.8	(-0.1)	

(D I)

図表2 景気の現状判断D I (季節調整値)



2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)

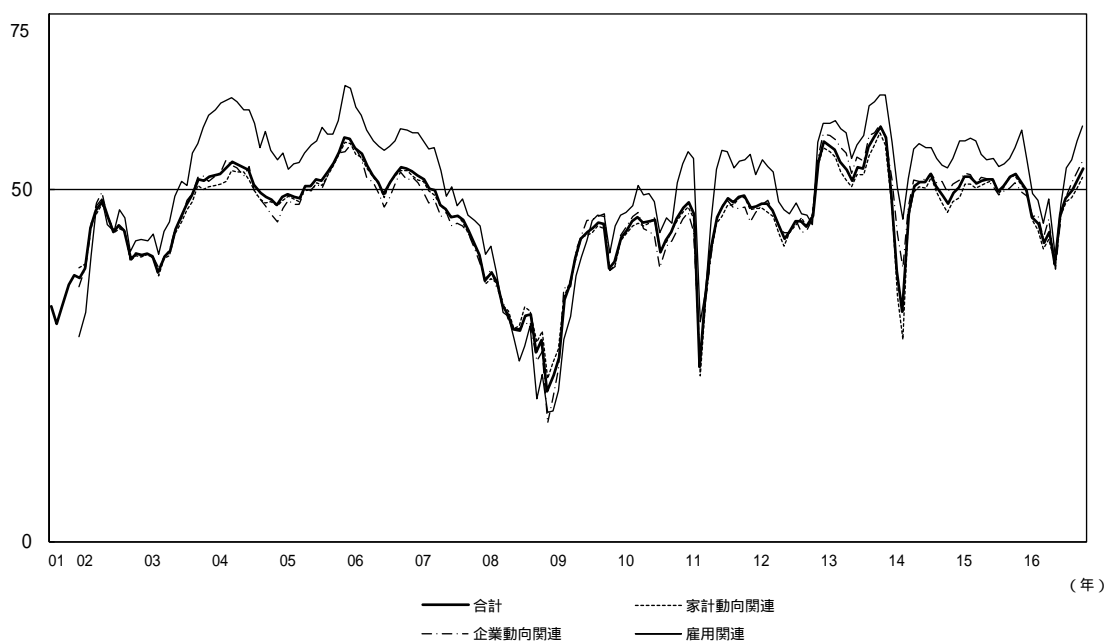
2～3か月先の景気の先行きに対する判断D Iは、53.0となった。家計動向関連、企業動向関連、雇用関連のすべてのD Iが上昇したことから、前月を1.6ポイント上回った。

図表3 景気の先行き判断D I (季節調整値)

(D I)	年 2016						(前月差)
	月 6	7	8	9	10	11	
合計	39.4	46.5	48.8	49.9	51.4	53.0	(1.6)
家計動向関連	39.5	46.4	48.2	48.8	50.2	51.7	(1.5)
小売関連	38.1	46.3	48.0	48.1	50.4	51.7	(1.3)
飲食関連	37.6	46.0	44.7	45.6	49.8	50.7	(0.9)
サービス関連	42.8	46.8	49.6	51.6	50.4	53.0	(2.6)
住宅関連	39.2	45.2	47.2	47.1	48.6	47.1	(-1.5)
企業動向関連	38.7	46.1	49.0	51.0	52.4	54.0	(1.6)
製造業	39.8	46.7	49.2	50.9	52.6	54.4	(1.8)
非製造業	37.7	45.9	48.6	51.3	52.4	54.0	(1.6)
雇用関連	40.2	47.9	53.0	54.1	56.9	59.0	(2.1)

(D I)

図表4 景気の先行き判断D I (季節調整値)



(参考) 景気の現状判断D I・先行き判断D I (原数値)

(現状判断)

図表5 景気の現状判断D I
(D I) 年 2016

	月	6	7	8	9	10	11
合計		41.2	45.1	45.6	44.8	46.2	48.6
家計動向関連		40.2	44.5	44.1	42.6	44.1	47.1
小売関連		38.8	43.5	42.4	40.8	42.9	46.8
飲食関連		40.5	43.9	43.2	39.7	41.0	46.1
サービス関連		42.2	46.8	47.0	46.2	47.6	48.2
住宅関連		44.7	44.6	47.8	45.4	42.7	46.2
企業動向関連		42.0	45.2	47.2	48.2	48.8	50.8
製造業		41.0	44.3	45.9	48.0	49.0	52.3
非製造業		42.7	46.2	48.5	48.6	48.7	49.5
雇用関連		46.0	49.2	52.1	52.2	54.1	53.9

図表6 構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	D I
2016	9	1.6%	13.1%	53.9%	25.8%	5.5%	44.8
	10	1.2%	15.3%	55.9%	22.6%	5.1%	46.2
	11	1.5%	18.9%	56.4%	18.9%	4.2%	48.6

(先行き判断)

図表7 景気の先行き判断D I
(D I) 年 2016

	月	6	7	8	9	10	11
合計		41.5	47.1	47.4	48.5	49.0	49.1
家計動向関連		41.5	46.6	46.3	47.5	47.9	47.7
小売関連		40.2	45.9	45.4	46.1	47.5	47.5
飲食関連		39.2	46.3	44.3	46.1	49.7	48.1
サービス関連		44.9	48.0	48.4	51.3	48.9	48.9
住宅関連		41.1	46.2	46.9	45.4	45.3	43.6
企業動向関連		41.1	47.8	48.7	49.8	49.8	50.5
製造業		42.1	49.3	49.1	49.9	50.0	50.4
非製造業		40.3	46.8	48.0	49.8	49.8	50.8
雇用関連		42.7	49.6	52.4	52.6	53.9	55.1

図表8 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	D I
2016	9	1.8%	17.6%	57.3%	19.6%	3.7%	48.5
	10	1.8%	18.8%	57.2%	17.8%	4.4%	49.0
	11	1.2%	20.3%	56.0%	18.7%	3.8%	49.1

II. 各地域の動向

1. 景気の現状判断D I (季節調整値)

前月と比較しての現状判断D I (各分野計)は、全国 11 地域中、10 地域で上昇、1 地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは沖縄(7.0 ポイント上昇)で、低下したのは中国(0.8 ポイント低下)であった。

図表9 景気の現状判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2016 6	7	8	9	10	11	(前月差)
全国		39.8	43.2	45.7	46.3	49.3	52.5	(3.2)
北海道		44.0	44.7	46.5	46.4	49.1	52.8	(3.7)
東北		41.7	39.6	45.5	45.9	48.6	53.6	(5.0)
関東		37.8	42.0	45.6	45.6	47.5	51.4	(3.9)
北関東		38.3	42.1	46.1	45.0	47.4	49.1	(1.7)
南関東		37.5	41.9	45.3	45.9	47.5	52.7	(5.2)
東京都		36.3	42.0	46.0	46.6	49.5	54.5	(5.0)
東海		39.3	42.6	44.3	44.7	49.5	49.6	(0.1)
北陸		41.6	40.4	44.5	44.6	50.8	53.1	(2.3)
近畿		39.1	45.3	45.2	44.5	47.6	53.1	(5.5)
中国		40.1	43.3	47.0	49.5	51.7	50.9	(-0.8)
四国		41.4	44.6	43.6	47.4	50.2	55.7	(5.5)
九州		40.1	46.2	49.7	46.9	52.8	55.7	(2.9)
沖縄		45.5	50.2	43.6	52.7	48.5	55.5	(7.0)

2. 景気の先行き判断D I (季節調整値)

前月と比較しての先行き判断D I (各分野計)は、全国 11 地域中、8 地域で上昇、3 地域で低下した。最も上昇幅が大きかったのは北海道(3.8 ポイント上昇)で、最も低下幅が大きかったのは東北(0.9 ポイント低下)であった。

図表10 景気の先行き判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年 月	2016 6	7	8	9	10	11	(前月差)
全国		39.4	46.5	48.8	49.9	51.4	53.0	(1.6)
北海道		42.0	46.2	48.5	48.0	50.3	54.1	(3.8)
東北		40.8	45.0	45.3	48.6	49.2	48.3	(-0.9)
関東		37.6	46.3	48.8	49.7	50.2	51.4	(1.2)
北関東		38.7	46.9	47.5	49.4	49.3	48.7	(-0.6)
南関東		36.9	46.0	49.6	49.9	50.8	53.0	(2.2)
東京都		35.7	46.6	49.5	51.7	53.3	55.4	(2.1)
東海		38.0	46.0	48.9	48.6	52.1	51.6	(-0.5)
北陸		37.3	44.8	49.4	48.4	52.2	54.9	(2.7)
近畿		40.6	46.5	48.5	49.8	49.2	52.1	(2.9)
中国		38.5	47.6	48.6	52.2	51.4	54.2	(2.8)
四国		41.8	45.8	48.2	48.0	48.4	51.5	(3.1)
九州		44.4	49.8	51.3	51.0	54.8	55.4	(0.6)
沖縄		44.4	45.4	51.2	48.7	51.1	54.4	(3.3)

(参考) 景気の現状判断D I ・先行き判断D I (原数値)

(現状判断)

図表 11 景気の現状判断D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
全国		41.2	45.1	45.6	44.8	46.2	48.6
北海道		46.9	48.5	48.3	45.7	46.2	47.1
東北		43.8	43.2	45.6	44.3	44.4	48.5
関東		39.6	44.1	45.0	44.3	44.6	47.5
北関東		40.5	45.6	46.2	43.8	44.7	46.0
南関東		39.1	43.2	44.3	44.7	44.5	48.3
東京都		38.3	44.2	44.4	44.8	46.0	49.3
東海		40.3	44.2	43.9	43.3	46.4	46.0
北陸		42.2	40.6	44.4	43.7	49.2	51.5
近畿		40.1	46.9	45.4	43.9	44.5	49.4
中国		41.7	44.9	46.7	47.5	48.1	47.7
四国		42.3	46.1	42.4	45.6	46.7	51.4
九州		40.1	47.3	49.2	45.8	50.7	52.9
沖縄		43.9	52.7	45.7	51.9	47.3	50.7

(先行き判断)

図表 12 景気の先行き判断D I (各分野計)(原数値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
全国		41.5	47.1	47.4	48.5	49.0	49.1
北海道		45.4	47.8	46.6	44.6	46.4	48.0
東北		42.1	45.3	44.7	47.6	47.7	47.0
関東		39.4	47.3	47.2	48.3	47.9	47.6
北関東		40.7	48.1	44.8	47.6	47.4	45.4
南関東		38.7	46.8	48.6	48.7	48.1	48.8
東京都		38.1	47.6	48.8	50.7	49.8	50.4
東海		40.5	47.1	47.5	47.9	49.4	48.2
北陸		38.4	45.8	48.0	47.5	50.0	51.3
近畿		41.1	46.1	47.1	49.3	49.2	51.2
中国		40.8	47.6	47.1	50.3	49.0	50.5
四国		43.7	46.3	47.5	48.9	47.5	48.6
九州		46.1	50.5	51.5	51.9	54.0	51.8
沖縄		47.0	45.9	49.4	46.2	50.0	52.0

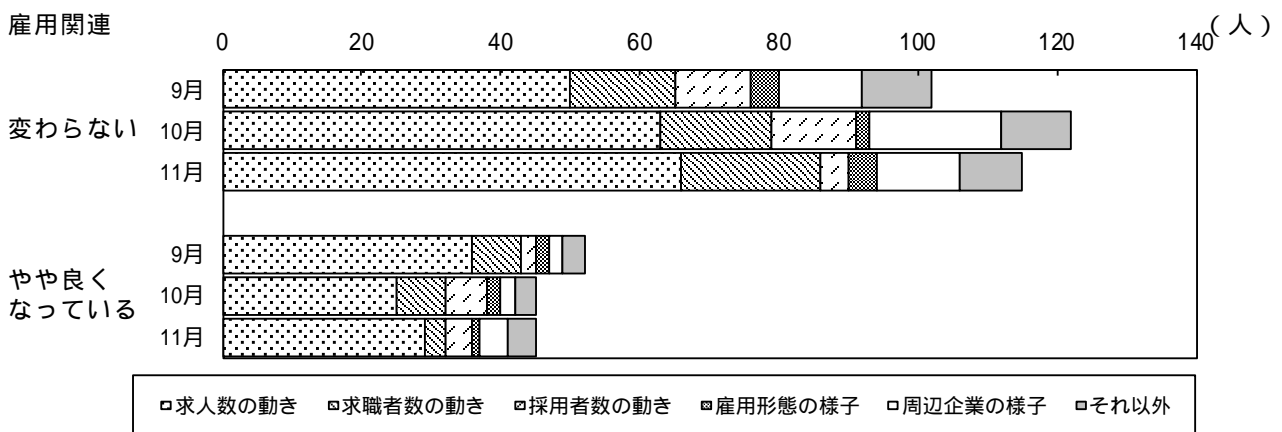
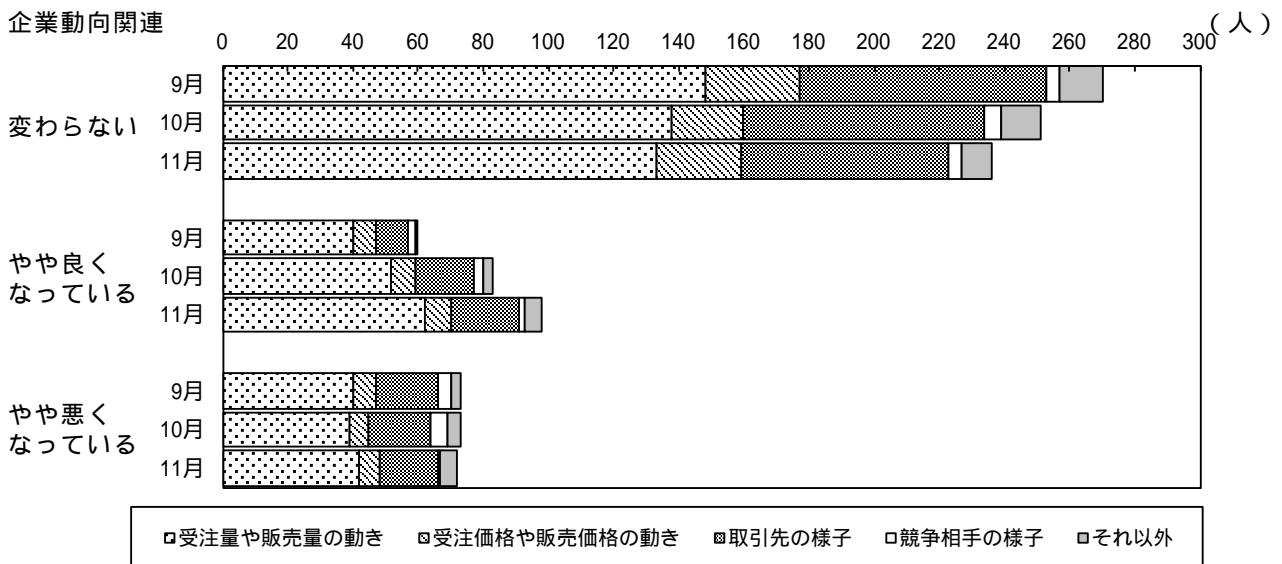
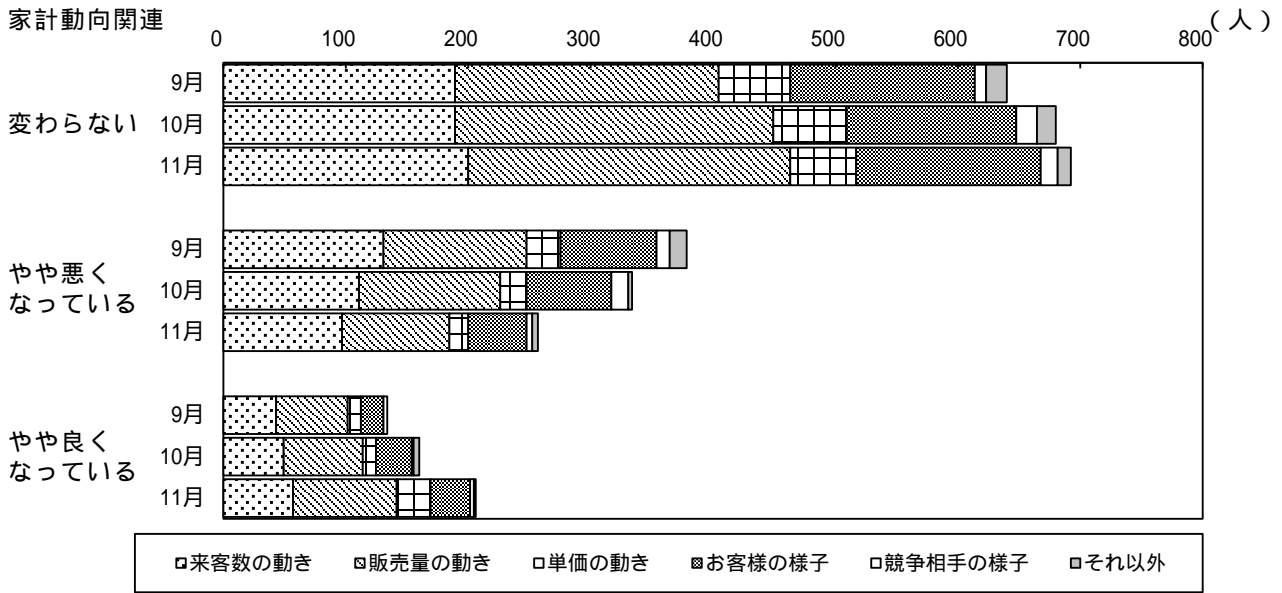
III. 景気判断理由の概要

全国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	特徴的な判断理由
現状	家計 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・株価の上昇が良い雰囲気を生んでおり、景況感は良好である（東海＝一般小売店〔高級精肉〕） ・来客数は伸びないままだが、気温が低下してきたため婦人ファッションの衣料に動きが出始めた。前年は暖冬だったことから、前年を上回る数字で推移している（北陸＝百貨店） ・寒くなり防寒具も必要となり客の出足もやや回復した（九州＝商店街） ・今月開催した住宅完成見学会への来場者数が、5月開催時に比べ61%増となっている（沖縄＝住宅販売会社）
	企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・公共工事、民間工事とも工事受注量は好調に推移している。民間建築工事は新たな商材の引き合いもあるなど、引き続き投資意欲の高さが認められる（北海道＝建設業） ・2～3か月前よりも、東京では受注量がやや増えてきているように思う。特に、旅行関係のダイレクトメール類の印刷物が増えてきている（近畿＝出版・印刷・同関連産業）
	雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・人材不足が慢性的に続く状況にあり、これまでは即戦力の採用や効率化のための期間雇用者を確保していたが、今は人材育成志向と正規雇用の求人・採用へと徐々に移ってきている（四国＝人材派遣会社）
先行き	家計 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・先行きの予約状況は今月同様に伸びている。例年よりも年末年始の曜日の並びが悪いものの、前年よりも動きがあるため期待をしている（東北＝都市型ホテル） ・株価の上昇や円安など、改善のための新しい要因が出てきている（南関東＝百貨店） ・円安傾向により、海外からの訪日客の増加に期待したい（近畿＝都市型ホテル） ・現段階の予約状況から推測できる今後2～3か月後の客室稼働率見込みは、今月よりさらに前年同月比でプラスとなる見込みである（沖縄＝観光型ホテル）
	企業 動向 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・優良企業は株価が上昇しているこの機会に設備投資を行い始めている。今後への期待とともに、先行きも良くなるのではないかと（南関東＝建設業） ・年末～3月末にかけて、製造業は一定水準の設備投資が予定されている。2次募集のものづくり補助金の効果もある。米国政治等の不安定要素はあるが、実体経済には問題がない（九州＝金融業）
	雇用 関連		<ul style="list-style-type: none"> ・年内は円安傾向が続く見込みで、製造業は人材採用にやや積極的になり始めた傾向がある（北関東＝民間職業紹介機関）

図表13 現状判断の理由別（着目点別）回答者数の推移

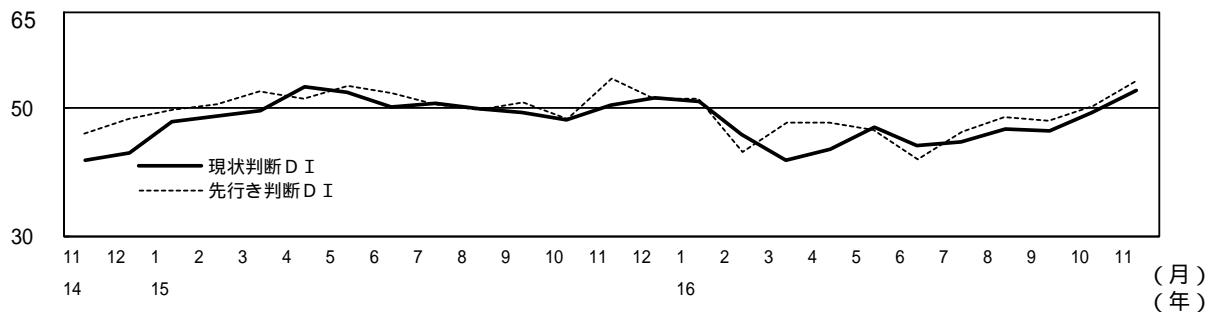


1. 北海道

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・食品については来客数、売上が回復基調となっているが、そのほかの 카테고리、特に衣料品については来客数が低迷している(百貨店)。
			・野菜の価格高騰が続いていることで、客が肉や魚など、ほかの商材の消費を節約する傾向がみられる(スーパー)。
			・自社製品を値上げしたにもかかわらず、札幌圏の都市部を始めとして法人部門を中心に引き合いが多くみられた(通信会社)。
	企業 動向 関連		・不動産の成約件数が伸びてこないなど、景気回復の実感はない。実際に給与などの増額もなく、天候不順による食品の価格上昇がみられるなかで、土地購入や建物新築などの取引は減少したままである(司法書士)。
			・公共工事、民間工事とも工事受注量は好調に推移している。民間建築工事は新たな商材の引き合いもあるなど、引き続き投資意欲の高さが認められる(建設業)。
	雇用 関連		・首都圏の大手百貨店での売行きが低迷している。地元では台風上陸などの天候不順による影響がみられる(家具製造業)。
			・月間有効求人数は前年を3.0%下回り、3か月連続で減少した。有効求人倍率は前年を0.04ポイント下回り、2か月連続で前年を下回ったが、引き続き1倍を超えており、雇用情勢は改善している(職業安定所)。
その他の特徴 コメント		・年末に近づき、販売スタッフの需要が高まっている。顧客からは前年のほぼ2割増しのオーダーがあるなど、企業の拡大意欲がうかがえる。また、一般の派遣、中途採用のニーズも堅調に推移しており、横ばいの業績から脱却しようという意欲が感じられる(人材派遣会社)。 ・前年と比較して求人広告の申込件数が減少している(求人情報誌製作会社)。	
		：IoT分野への積極的な投資に関する動きが複数件出てきており、マインド面でも景況感の上向き傾向が感じられる(通信業)。 ：11月後半の気温低下により、暖房機全般の動きが良かった(家電量販店)。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・当地に入港する貿易船の隻数や工事量などの外部要因に変化が見込めないため、今後も変わらない(コンビニ)。
			・各メーカーで新型車の発表が続いているため、相乗効果で販売が盛り上がるのが期待できる(乗用車販売店)。
	企業 動向 関連		・大型経済対策や災害復旧の公共工事の本格化が、観光関連業種の減速や台風被害の悪影響を補い、道内の景気は現状のまま推移する(金融業)。
			・懸念していた原材料の値上がりが始まっているため、今後についてはやや悪くなる(食品製造業)。
雇用 関連		・求人広告件数は業種ごとに増減のばらつきがあるが、全体としては前年、前々年と同様の動きをしているため、しばらくは大きな動きはないとみられる(求人情報誌製作会社)。	
その他の特徴 コメント		：高齢者の運転免許証自主返納の動きの高まりが需要を喚起しており、今後についてはやや良くなる(タクシー運転手)。 ：先行受注の数字をみても前年の9割以下であるため、今後についてはやや悪くなる(旅行代理店)。	

(D I) 図表14 現状・先行き判断D I (北海道)の推移(季節調整値)

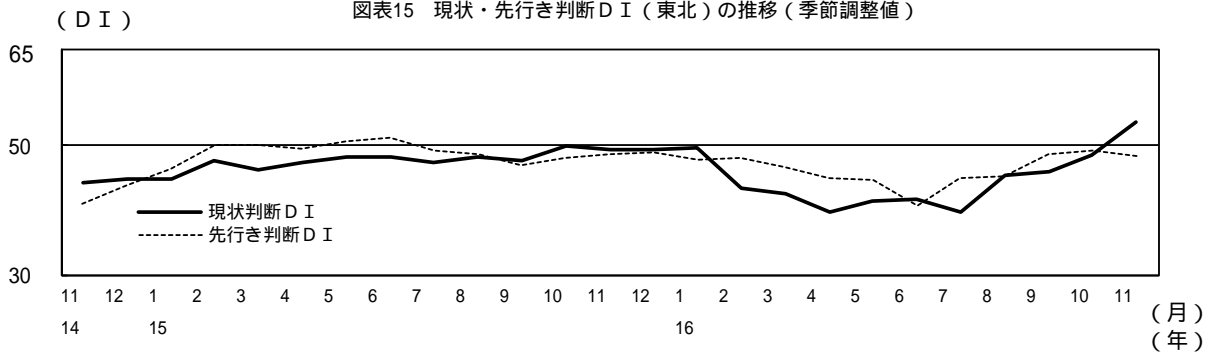


2. 東北

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・石油製品の仕入価格が上がってきているが、末端価格に十分な転嫁がされていない。ただし、前年は暖冬であったが、今年は平年の気温を下回っており、販売量が増えている。そのため、収益の下落を物量でカバーしており、業績はなんとか落ち着いている（その他専門店 [ガソリンスタンド]）。
			・前年と比較して来客数が増加しているなど、景気は上向きの兆しをみせている。ただし、客単価は横ばいで推移しているため、年末に向けて動向を注視する必要がある（高級レストラン）。
			・客層のうち、多数を占めている年配客は寒くなると外出を控える傾向にあるため、11月の冷え込み始めたころから、来客数が頭打ちとなっている。また、客は特別に価格の安いものを求めているわけではないものの、買上点数が減少している（コンビニ）。
	企業 動向 関連		・年末の贈答用ふじりんごと家庭用の注文数は、前年並みで推移している（農林水産業）。
			・上期の実績を踏まえた下期の需要想定が、当初の見込みより減少している。公共工事の減少と工期の遅れが影響しているのか、出荷量の前年比の減少幅が大きくなっている（窯業・土石製品製造業）。
	雇用 関連		・設備改造などの受注は、引き続き好調である（輸送用機械器具製造業）。
		・製造業のなかでも自動車製造関係は景気が良いという事業所もあるが、それ以外の製造関係、建設関係などは、大きな変動はなく、景気に影響は与えない様子である（職業安定所）。	
その他の特徴 コメント			・特に中小企業の営業職の募集が多く、景気が上向きであることを実感している（人材派遣会社）。
			：国内団体旅行の動きが良い。新幹線効果で北海道への数字は好調である。また、沖縄、関西方面への動きも良い（旅行代理店）。
			：早めのセールを行っているが、普段スーツを着ない層の客が目立っており、主軸であるサラリーマンの来客数が伸び悩んでいる。先行きの不透明感により、買い控えているのではないか（衣料品専門店）。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・客の会話からは、冬の賞与の増額は期待できず、支出にまわすお金を削るという話を聞いている。そのため、今後の景気もあまり変わらないのではないかと（百貨店）。
			・年金財源などの老後の不安があり、消費者の節約志向が高まっている。そのため、客層に高齢者が多い商店街では、売上が減少傾向にある（商店街）。
	企業 動向 関連		・受注量は横ばいで推移するとみている。ただし、為替の動向が現在の水準を維持すれば、輸出採算が改善する可能性がある（一般機械器具製造業）。
			・今年是为替が円高傾向であったため、原料の価格が下がって安心していましたが、米国の大統領選挙以降は円安になっている。来年の原料価格が再び値上がりすると、厳しくなる（食料品製造業）。
雇用 関連		・年度当初の採用計画からの新規採用や増員などはなく、この先も大きな変化はない（学校就職担当者）。	
その他の特徴 コメント			・先行きの予約状況は今月同様に伸びている。例年よりも年末年始の曜日の並びが悪いものの、前年よりも動きがあるため期待をしている（都市型ホテル）。
			・特にサラリーマンの人達の顔色に精彩がなく、節約傾向が顕著にみられている。今は、日々の消費を減らしつつレジャーにはお金をかける傾向があるため、働く世代の節約傾向は今後も強くなるのではないかと（コンビニ）。

図表15 現状・先行き判断D I（東北）の推移（季節調整値）

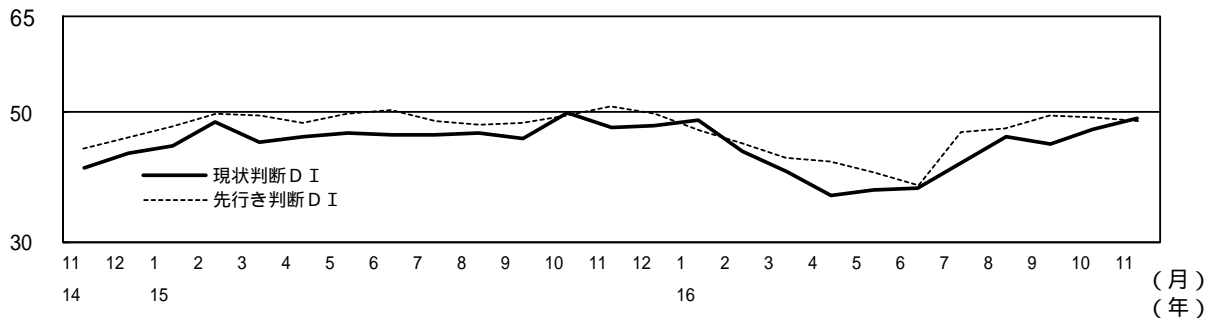


3. 北関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・販売量という点では変わっていない。客は、買い回ることはあまりなく、目的の物を買ってそのまま帰るといった感じである(百貨店)。
			・今月はまた祝日と土日がつながらず、曜日の並びが良くなかったため、勤労感謝の日前後の入込客数が悪い(観光名所)。
			・忘新年会の予約状況が前年実績を超えている。また、宴会予算も増えてきており、地元企業や団体にゆとりが出てきたようである。社員の福利厚生目的のパーティーも増えてきている(一般レストラン)。
	企業 動向 関連		・米国の情勢が大きく変化し、為替など金融市場も大きく変動しているが、企業の需要に対する慎重な見方は続いている(金融業)。
			・油圧建設機械向けの仕事で回復傾向が出てきている。また、年内納期対応のため、一部の部署ではシフト勤務で対応している(一般機械器具製造業)。
	雇用 関連		・今のところ12月の受注量は少ない(金属製品製造業)。
		・例年に比べて職種は限られるものの、この時期に求人をしてしている企業が多い。特に製造業の求人を見る限り、今後の製品需要を見込んでいる企業が多いようである(学校[専門学校])。	
	その他の特徴 コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・年末年始に向かい、繁忙期対応への求人が目立っている。特に物流倉庫などでのフォークリフト作業者のひっ迫感が強く出ており、時給相場も150円程度上がっており、それでも応募のない状態が続いている(人材派遣会社)。 ： 平年並みの気温で推移し、野菜価格も安定してきたことで、衣料品、食料品、住居関連用品共に売上、来客数は前年を上回り、全体でも前年比104%で推移しており、消費マインドの改善がうかがえる(スーパー)。 ： 駅前にはホテルラッシュで、いろいろなホテルに客が流れているようで、利用客が非常に少なかった。それに伴って売上も激減しており、なんとか対策を考えたい(都市型ホテル)。 	
先行き	家計 動向 関連		・季節的な商品、例えばタイヤなどはそれなりに売れているが、積極的に自動車を買いたいという客が少ない状況は続く。今後は米国の次期大統領の動きを注視したい(乗用車販売店)。
			・12月中旬に大河ドラマが終わり、大河ドラマ館も1月中旬に閉館となるため、落ち着いてしまうのは目に見えているが、今後もこの盛り上がりを生かしていきたい(商店街)。
	企業 動向 関連		・生産量は多少増えるものの、受注内容の厳しい状況が続いている(電気機械器具製造業)。
			・時期的なものに加えて、補正予算の効果が出てきそうである(建設業)。
	雇用 関連		・年内は円安傾向が続く見込みで、製造業は人材採用にやや積極的になり始めた傾向がある(民間職業紹介機関)。
	その他の特徴 コメント	<ul style="list-style-type: none"> ： ここ3か月当社の業績は横ばいだが、同業他社の状況は少しずつ悪化している。客の争奪も激しく、先行きに不安を抱いている。良くなる気配は感じられない(その他サービス[自動車整備業])。 ×： 寒さ次第で暖房機器は伸びるかもしれないが、店頭に出す商品群がない状況で、販売点数が伸びない(家電量販店)。 	

(D I) 図表16 現状・先行き判断D I (北関東)の推移(季節調整値)

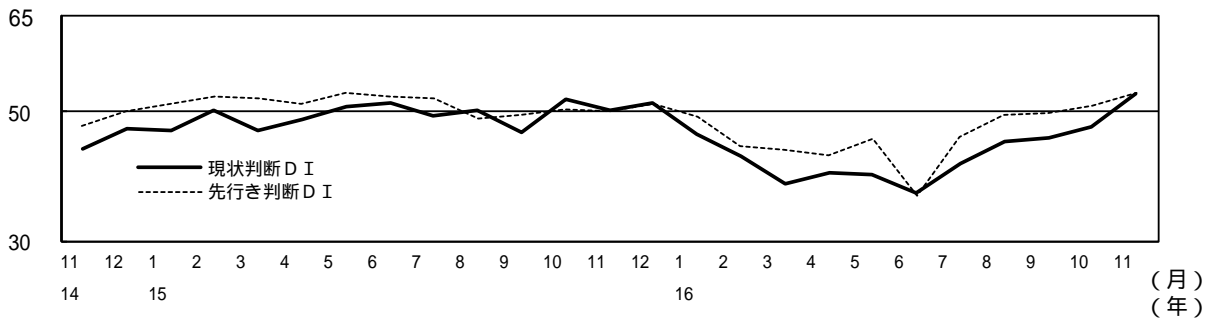


4. 南関東

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・ 冷凍食品の売上などは順調に伸びているが、ドーナツなどのし好品の売上が大幅に落ち込み、客の購買動向が激変している。今必要のない物は買い控えているのがよく分かる (コンビニ)
				・ 来客数は落ちていないが、年賀状印刷やダイアリーなど単価の高い季節商材の販売量が不調だったため、結果として売上は落ちている (一般小売店 [文房具])
				・ 前年は落ちていたが、寒波の影響により防寒衣料が2けた増となり、一昨年数字に戻っている。寝具メーカーのイベントに参加したのも良かった (衣料品専門店)
	企業 動向 関連			・ 契約更新時に、賃貸料の値上げをテナントに申し込んでいるが、受け入れてくれるテナントがようやく増えてきた一方で、早期解約違約金を払ってでも退去せざるを得ないテナントもあり、景気の回復はまだら模様である (不動産業)
				・ 得意先からの受注量、内示量共に増加しており、3か月先までは増産傾向である (金属製品製造業)
	雇用 関連			・ 荷主の生産量が計画を下回り、年末にかけて増える気配もない。出荷量も横ばいから下方修正になっている (輸送業)
				・ 新規求人数は3か月前に比べ増加しているものの、前年同月比では増加割合は低下している (職業安定所)
			・ 同業他社では、軒並み前年比で増収のところが多く、なかには最高益を上げた企業もあると聞いている (求人情報誌制作会社)	
	その他の特徴 コメント		: 輸送回数、人数共に増加している。1台当たりの売上が増えたことと、事業自体が上向いた可能性ありとの業界報道がある。最近、長距離客が深夜バスに集中しているが、それ以外の客も多いので、売上自体は満足している (タクシー運転手) : 当地域としては、人気漫画の連載終了に伴うファンや観光客の急激な増加が一段落し、今までどおりの平穏さを取り戻してきたが、景況感としては下降ペースになってきたことは否めない (商店街)	
先行き	家計 動向 関連			・ 基礎工事のくい打ちに使うくいと、重機の調達状況が特にひっ迫しており、受注残の着工計画が立てにくくなっている (住宅販売会社)
				・ 米国経済の先行きが今後どうなるか不透明なので、しばらく動きが停滞する (都市型ホテル)
	企業 動向 関連			・ 受注量や販売量は前年同期比で変わらず、ほぼ増減なしで推移している (広告代理店)
				・ 優良企業は株価が上昇しているこの機会に設備投資を行い始めている。今後への期待とともに、先行きも良くなるのではないかと。
	雇用 関連			・ 企業からの求人数は引き続き堅調に推移し、人材会社は人材不足で採用に苦戦する状況が続く (人材派遣会社)
	その他の特徴 コメント			: 株価の上昇や円安など、改善のための新しい要因が出てきている (百貨店) : 店売のみならず、インターネットで印鑑リフォームという、印鑑の彫直しの注文を受けている。これは祖父母が亡くなり不要等のもので、必要に迫られるようなものではないが、その需要が上向きになっている。8月の注文は10本だったが、11月はリフォームの注文本数だけで18本である。法人はやや上向きであり、個人の注文もやや上向きになっている (出版・印刷・同関連産業)

(D I) 図表17 現状・先行き判断D I (南関東)の推移 (季節調整値)

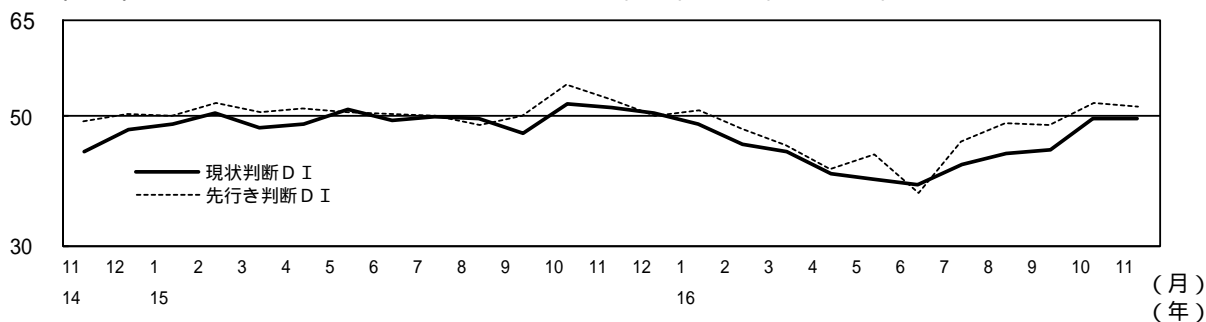


5. 東海

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・野菜の価格高騰で客単価は上昇しているが、嗜好品の菓子等は、売上が少し下がっている。生活必需品の高騰で客単価が高くなり、売上は前年並みであるが、決して良い方向ではない(スーパー)。
				・今月はお歳暮の早期受付の時期であるが、売上が伸びたのはポイントアップの日だけで、平常時は伸び悩んでいる。月全体でみると少し減っている。ポイント等少しでもメリットがないと、客には動きが出ない(一般小売店[贈答品])。
				・今月は秋の行楽シーズンがピークを迎えるが、取扱件数、取扱額共に前年同月を上回り、企業には金や時間を余暇に回す余裕が感じられる。仕事が忙しすぎて旅行を実施できず、次のシーズンに延期となる案件もあり、景気は上向きである(旅行代理店)。
	企業 動向 関連			・受注件数はあるが、客からの値引き要求が強く、受注金額が伸び悩んでいる(一般機械器具製造業)。
				・例年と同様に今月は荷動きも活発で、受注量、販売量共に増加している(パルプ・紙・紙加工品製造業)。 ・取引先では、受注量が減少している。年末の一時金等が減るとい話も、多く耳にする(食料品製造業)。
	雇用 関連			・12月の賞与支給後の活動を予定する潜在的な転職希望者を含み、登録数は上向きが続いている(民間職業紹介機関)。
			・新規求人数は、建設業、医療・福祉業、サービス業で堅調に推移しており、正社員の求人も増加している(職業安定所)。 ・短期派遣のニーズはあるが、正社員としての求人件数は、県全域で減少している(新聞社[求人広告])。	
その他の特徴 コメント		: 株価の上昇が良い雰囲気を生んでおり、景況感は良好である(一般小売店[高級精肉])。 : 輸出に伴う売上は、円安の恩恵を享受している。出荷数も中国を中心とするアジア圏で伸びている(輸送用機械器具製造業)。		
先行き	分野	判断	判断の理由	
	家計 動向 関連		・必要以外の品物や自家用の商品が伸びていない。ついで買いによる売上の伸びがないため、厳しい状況が続く(商店街)。	
			・製造業を中心に不透明感が強く、今後も利用実績は悪くなっていく(都市型ホテル)。	
	企業 動向 関連		・この1年は円高で大企業の業績が悪くなかったが、米国の大統領選挙後は円安が進み、今後は少し持ち直す。大幅に良くなるとは思えないが、これから悪くなることはない(化学工業)。	
			・トラックで運ぶ1件当たりの量が減少しており、それだけ世の中の荷物量が減っている。段々と小口化し、経済が萎んでいる。今後もまだ景気は下降していく(輸送業)。	
雇用 関連		・前年は追加的に随時行われていた企業のインターンシップ募集も、今年は定期的な実施となり、目新しい変化は特にない(学校[専門学校])。		
その他の特徴 コメント		: 円安傾向にあるので、客先での受注量が増えて、消耗品の発注数も回復する(窯業・土石製品製造業)。 : 新型車種の投入で期待感はあるが、新型車種が売れば他の車種が売れないというパターンは変わらず、前年同期並みの販売台数を維持するのがやっとなのである(乗用車販売店)。		

(D I) 図表18 現状・先行き判断D I (東海)の推移(季節調整値)

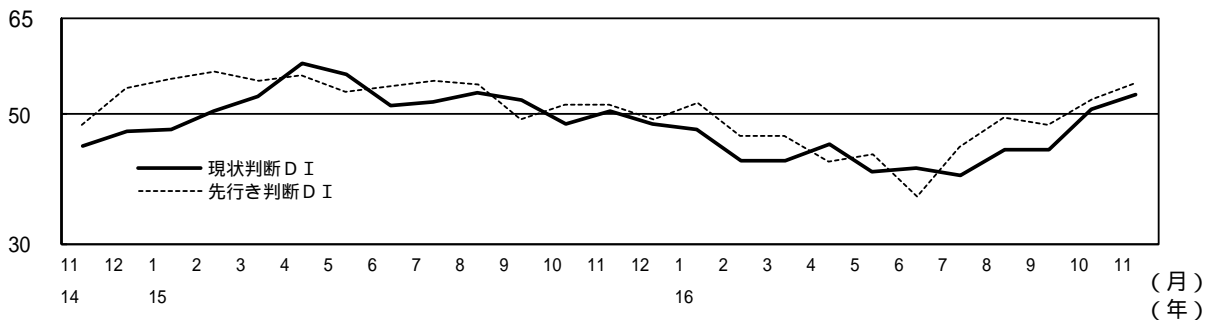


6. 北陸

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・野菜の価格高騰が続くが、全体としての物量は昨年並みに推移しており、売上は横ばいの見込みである(スーパー)。
			・前年同月比で見ると、北陸新幹線開業効果がやや落ち着きをみせたこともあり、団体、個人客ともに、この夏の時期と比べてもやや低調な予約、利用状況になっている(テーマパーク)。
			・来客数は伸びないままだが、気温が低下してきたため婦人ファッションの衣料に動きが出始めた。前年は暖冬だったことから、前年を上回る数字で推移している(百貨店)。
	企業 動向 関連		・自動車関連の資材を除いて、輸出及び国内共に受注確保が難しい。特に衣料関係では、前年同期を下回る受注状況が続いている(繊維工業)。
			・米国大統領選挙以降の円安基調が、輸出企業にとっては想定以上のプラス効果となっている。今後も米国の利上げ実施が確実となってきたことを背景に、先行きの期待感がある。国内生産から輸出への動きの後押しとなつて、堅調に受注が入ってきているとみられる(一般機械器具製造業)。
			・燃料の軽油価格がじわじわと上昇傾向にあり、コスト増となつて利益を圧迫している(輸送業)。
雇用 関連		・10月の新規求人数は、前年同月比で増加している。しかし、前月と比べると減少はしたものの、大きな数字の変化はみられないため状況は変わらない(職業安定所)。	
		・ここ最近では20~30代前半の、資格取得者の新規登録が増えている(人材派遣会社)。	
その他の特徴 コメント			: 9~10月は青果や水産物の高騰と品不足となり、利益減と来客数減で昨年を下回る状況が続いた。11月のカニ漁解禁後から来客数が増えはじめ、現在は昨年同時期とほぼ同じくらいの水準になってきた(一般レストラン)。 : 売上が悪かった昨年の11月よりは15%良かったものの、最低ラインぎりぎりといった状況である。客の職種にばらつきがあるが、中小企業ではボーナスなしという声がいくつも聞こえてくる(スナック)。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連		・商店街の多くを占める衣料店は、冬物衣料の売上に頼ることが多い。飲食関係は、例年と比べ変化はない。そのため、衣料の動向次第で商店街全体の景気が変わる。百貨店も衣料関係は苦戦している。飲食関係で何とかにぎわいが出ている状況である(商店街)。
			・新型車種のラインナップが出そろうので、受注、登録ともに計画どおりに推移するものと見込んでいる(乗用車販売店)。
	企業 動向 関連		・米国の大統領選後の円安と株高の状況が継続するかという点と、さらに、輸出企業や納入業者の業績にどう影響するかが見通せないため、どちらともいえない(金融業)。
			・新商品の拡充もあり、春先に向けて生産量は増える計画となっている。ここしばらくは、為替や株価の動きの期待感もあり、売上は上向いていくものと考えている(精密機械器具製造業)。
	雇用 関連		・就職内定者が出た企業やそれ以外の企業でも、今年度のお礼の際に、次年度の求人案内や冬季インターンシップの案内を持って来る。そのような企業が前年度より増えた。製造業の求人意欲は衰えていないとみている(学校[大学])。
その他の特徴 コメント			: 新幹線の特別運行が、1本だけだったが、もちろん満席だったそうだが、このニュース以来、観光客が一段と増えたようである。東北地方からの旅行者の増加を見込んでいる(一般小売店[鮮魚])。 : 北陸新幹線開業効果が薄れて、週末の予約は順調なもの、平日の予約数は伸び悩んでいる(観光型旅館)。

(D I) 図表19 現状・先行き判断D I (北陸) の推移 (季節調整値)

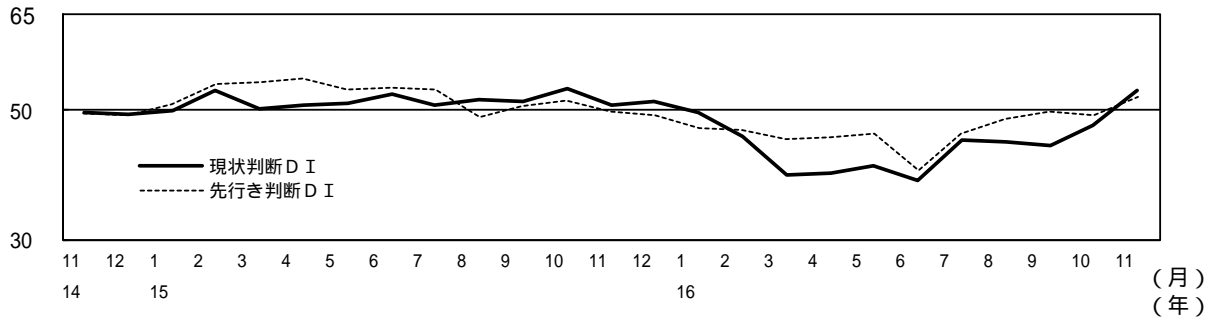


7. 近畿

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連		・今まで比較的堅調であった食品も前年実績を下回る状況で、顧客は購買に対して、より慎重になってきている(その他小売[インターネット通販])。	
			・気温の低下により、衣料品関連が11月に入ってようやく前年を上回る形となった。また、ネックウェアや帽子、靴などのアイテムに関しても、前年比で103%と回復し、3か月連続の前年割れは避けられた。化粧品やアクセサリなどのアイテムも引き続き好調を維持しており、クリスマス商戦にこの状況が維持できれば、秋の落ち込みをややカバーできる形になる(百貨店)。	
			・昼の低価格の定食を始めたが、グループではなく1人の客が多く、来客数の増加にはつなげていない(一般レストラン)。	
	企業 動向 関連		・タオル産地では最需要期を迎え、受注量が前年比でも増えているが、消費税増税前と比較すると微減であり、あまり盛り上がっているとは感じない(繊維工業)。	
			・今月に入って気温が一気に低下したこともあり、駅構内でも冬物商材が動き始めた。また、インバウンド需要も前月に比べて大きく伸びており、特に土産物店には大きな動きがみられる(その他サービス業[店舗開発])。	
			・今月も先月に続き、荷動きはあまり良くない。業務用は安定しているが、家庭向けが思ったよりも伸びていない。野菜の高騰などが原因とも思われるが、全体的に消費が減退している(食料品製造業)。	
	雇用 関連		・求職者の動きは、好条件の企業に集まる傾向にある。条件に合わない企業は敬遠される傾向が顕著で、売手市場の色彩が一層、強くなっている(人材派遣会社)。	
			・欠員が2人出たため、急ぎよ募集を行ったが、今までに比べて応募が集まらなかった。給与面などで折り合わないことも多く、少し賃金相場が上がっていることを実感している(学校[大学])。	
		その他の特徴 コメント	: 2~3か月前よりも、東京では受注量がやや増えてきているように思う。特に、旅行関係のダイレクトメール類の印刷物が増えてきている(出版・印刷・同関連産業)。 : 急に冷え込み、アイス商品が売れず、飲料も伸びない(コンビニ)。	
	先行き	分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連			・新築分譲マンション価格の高騰によって購入意欲が減退し、販売状況は芳しくないが、販売価格の低下はみられない。今のところ、住居を買う必要性のある客は、先送りせずに購入している(住宅販売会社)。	
			・12月には相場が落ち着いてくるといふ産地情報もあり、価格が下がれば販売量、売上共に少しは良くなる。ただし、長続きはしない(一般小売店[花])。	
企業 動向 関連			・近年の傾向であるが、以前に比べると年末にかけての駆け込み工事が少ない(建設業)。	
			・年度末に向けた案件が昨年以上にあり、競争は激しくなるものの、良くなっていく(化学工業)。	
雇用 関連		・例年は12月に向けて求人数、求職者数共に減少し、1月以降は増加するが、企業は業務量や業績が極端に変動するとはみていないため、現状維持で推移する(職業安定所)。		
	その他の特徴 コメント	: 円安傾向により、海外からの訪日客の増加に期待したい(都市型ホテル)。 : 消費者の財布のひもは固く、なかなか外食の増加には結び付かない。近隣の飲食店も暇そうである(一般レストラン)。		

(D I) 図表20 現状・先行き判断D Iの(近畿)推移(季節調整値)

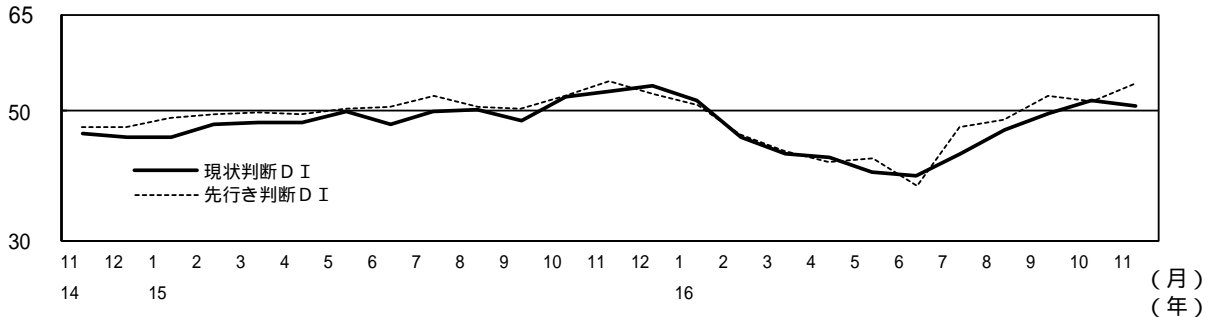


8. 中国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・秋の行楽シーズンに発生した鳥取県中部地震により、団体客のキャンセルや個人客の出控え等の影響が出ており、県全体への入込客数が減少している（テーマパーク）
			・寒さが厳しくなり、やっと冬物の売行きが上向いてきている。また料理用品等では、最近の生活様式の変化に伴ってIH対応商品を購入する客が増えており、それが客単価の上昇につながっている（スーパー）
企業 動向 関連			・11月に入り荷動き好転の雰囲気があったが、力強い実需の好転は見られず、引き続き今後の方向性を探る状況にある（鉄鋼業）
			・自動車部品メーカーでは操業が上向いてきている。完成車メーカーの新型SUVの生産が本格化し、部品の受注が増加しているため、1～2時間の残業と月1回土曜出勤が恒常化しつつある。また為替も円安となり輸出採算も好転している（金融業）
雇用 関連			・長引く中国の景気後退感が続き、業況悪化による工場閉鎖の影響等による取引先の輸出が減少しており、国内工場の生産調整によって受注量が減少している（化学工業）
			・相変わらずアルバイトやパート求人の動きが活発で、時間給も引上げられる傾向が続いているが、対象者が条件の良い方に移っており、そのしわ寄せが時給を上げられない弱小事業所の人手不足につながっている（新聞社 [求人広告]）
その他の特徴 コメント		・栄養士や保育士関連、一般企業などで求人数が増加してきている（学校 [短期大学]）	
			：11月は例年トップシーズンで月初めの先行予約は前年を上回る件数でスタートしていたが、今月は鳥取県中部地震の影響から伸び悩んでおり、前年並みで推移している（都市型ホテル） ：先月の地元プロ野球チームの優勝セールの影響が今月になって表われており、客の様子から買い控えが見受けられる。一方一部の高額商品は売れているものの、米国大統領選挙の結果を受けた円安株高により、全体的に景気は厳しい状況にある（商店街）
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・今月は各企業の本社からの従業員の来社が続き、多少の売上増加も見られるが、1車当たりの単価が低い上に、今後の予約状況も芳しくなく、当日予約や配車依頼にも期待できない（タクシー運転手）
			・忘年会や新年会などは順調に伸びる見込みであり、インバウンドの集客もまだまだ見込める（一般レストラン） ・世界情勢に一般消費者が左右されており、必要外の出費を避ける傾向が続く（美容室）
	企業 動向 関連		・公共工事が前年より前倒し気味で発注されており、関連業界は年末にかけて前年より受注が増えてくる（会計事務所）
			・米国の次期大統領の発言や韓国大統領の動向など、世界情勢と経済が不安定な状況にあり、株価や為替の変動も安定しないので、景気の先行きが読めない（木材木製品製造業）
	雇用 関連		・求人が大量に出てきているが、充足が困難な職種が多く、求人数は増加しているように見えるものの、今後も求人構造に変化はない（職業安定所）
その他の特徴 コメント		：冬のボーナスの時期になり客の購買意欲が向上するとともに帰省で車を利用する客も増えるので、それらが利益につながる見込みである（乗用車販売店） ：短期の先行きについての好材料や劇的に改善する要素はなく、中長期の不透明感や手持ち仕事量の減少が足元の景況感を悪化させる（輸送用機械器具製造業）	

(D I) 図表21 現状・先行き判断D I (中国) の推移 (季節調整値)

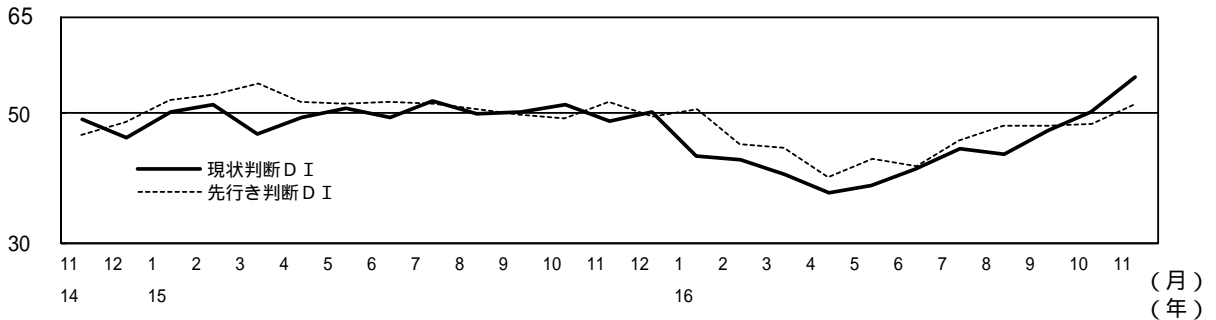


9 . 四国

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連			・ 季節商材の売上や、年末までの予約状況をみると、良くも悪くもない(コンビニ)
				・ 野菜高騰の影響から全般的に価格が上げられているが、販売量は落ちていない(スーパー)
				・ 一日の客単価、回数等減っている。5年前と同じ状況になっている(タクシー運転手)
	企業 動向 関連			・ 卸売単価は例年と比べて高値基調が続いている。これは自然災害等による入荷量の減少によるもので、消費者の購買意欲が上向いているのではない(農林水産業)
				・ 年末を迎え、高価格帯の商品の生産・出荷が順調である(食料品製造業)
				・ 国内需要はおおむね堅調に推移するも、海外需要は減少している(一般機械器具製造業)
雇用 関連			・ 10月の有効求人倍率は1.4倍で、5月以降上昇傾向にある(職業安定所)	
			・ 人材不足が慢性的に続く状況にあり、これまでは即戦力の採用や効率化のための期間雇用者を確保していたが、今は人材育成志向と正規雇用の求人・採用へと徐々に移ってきている(人材派遣会社)	
その他の特徴 コメント				・ 中小企業の採用難が長期化しており、打開策も見い出せてはいない。求人広告を載せても採用できる見込みが薄いことから、掲載数が減少している(求人情報誌) : 来月にかけて新型車発表が続き、来場者数は増えている(乗用車販売店) : 寒くなって冬物の購買意欲はあるが、早くもセール待ちになっている(その他小売[ショッピングセンター])
		分野	判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連			・ 新商品効果が一巡し、まだ新生活需要期には入っていないため(通信会社)
				・ 寒くなるとアウトターが動き、年末に向けて少しは良くなる(衣料品専門店)
	企業 動向 関連			・ まだ設備投資に消極的な経営者が多く、景気が回復しているとは言えない。良い業種と悪い業種があり、歯切れの悪い回答が多かった(公認会計士)
				・ 物件探しの問い合わせ等が多くなっているが、それに見合う土地、建物が非常に少ない(不動産業)
	雇用 関連			・ 人材不足は依然続いており、年明け後は異動時期に対し、早めの求人活動が予想される(求人情報誌製作会社)
その他の特徴 コメント				・ 来年の愛媛国体に期待している。地元松山の地域活性化を進めるには、全国を知る必要がある(観光型旅館) : 工業系の高校、大学からの新卒者が採用出来ない企業が多い。中途採用を含め、今後も根気強く採用活動を行うという企業が多い(民間職業紹介機関)

(D I) 図表22 現状・先行き判断D I (四国)の推移(季節調整値)



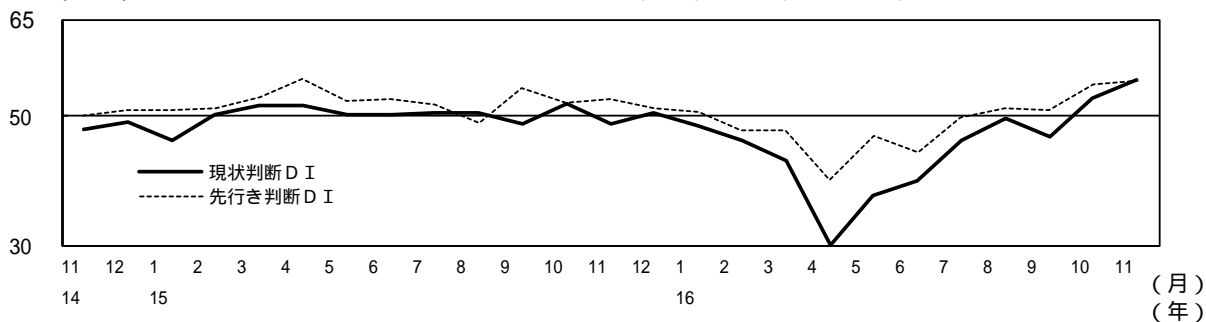
10.九州

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・客の購買動向が必要なものに限られている。趣味的なものには手を出さない(コンビニ)
			・寒くなり防寒具も必要となり客の出足もやや回復した(商店街)
			・衣料品が不振である。気温の影響もあるが流行がないことも影響している。また、前年と比べてインバウンド売上が苦戦している(その他小売の動向を把握できる者[ショッピングセンター])
	企業 動向 関連		・米国の大統領選挙以降、円安株高の状況が続いているが、中小企業に大きな影響は見られない。一般的に受注量は増えているものの、人手不足のため見合わせている状況である(金融業)
			・IT関連のうちソフト開発においては年末、さらには3月期の年度末に向けて受注量の増加が見込める(通信業)
			・熊本地震の影響を受けた企業の業績が回復しない。熊本地震当初はダメージが見えにくかったが、少しずつ数字に表れてきた。支払計画の見直しや破たん等の客も出てきた(その他サービス業[物品リース])
雇用 関連		・企業から届く求人数は減少傾向にあるが、前年度と比較して変化は見られず、前年度と同推移である(学校[大学])	
		・新規の依頼が増えている。製造業や販売関係の企業からの問い合わせが多い。お歳暮時期の依頼も結果的に前年同様の人員での問い合わせがあった。また、新店舗や改装オープンにつき企業も求人を多く出している(人材派遣会社)	
その他の特徴 コメント			：今月は大変稼働率も良く売上也先月以上である。夜の客も少しずつ動いてきており、海外の客も増え、大変良い状況である(タクシー運転手) ：補助金事業が開始され、お金が回り始めた。特に、農林水産関係の事業が回りだし、ハウスの建て替えや、設備導入等に動きがある(農林水産業)
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連		・主力の衣料品不調が続いており、景気が明るくなる兆しは見えない。一方で、今の円安株高傾向が続いた場合、インバウンドが多少増え、高額品・宝飾品等に好影響が出る(百貨店)
			・これから3月までは、各種コンサートも含め団体を中心に予約が入っている(都市型ホテル)
	企業 動向 関連		・自動車関連は少し好調だが、他の半導体関連は動きが停滞しているので良くも悪くもないという状況が続く(その他製造業)
			・年末～3月末にかけて、製造業は一定水準の設備投資が予定されている。2次募集のものづくり補助金の効果もある。米国政治等の不安定要素はあるが、実体経済には問題がない(金融業)
雇用 関連		・前月と比較して有効求人倍率は減少したものの、有効求人倍率の高い状況は当面変わらない(職業安定所)	
その他の特徴 コメント			：今後3か月以内に新型車2車種が販売開始となる。新車販売店にとっては大変ありがたい状態が続き、例年以上の売上が期待できる(乗用車販売店) ：現在の状態では今後2～3か月の身の回りの景気は読めるが、その先が不透明である。少し行先を間違えると大変苦しくなってくる。警戒して進行している状況である(電気機械器具製造業)

(D I)

図表23 現状・先行き判断D I (九州)の推移(季節調整値)

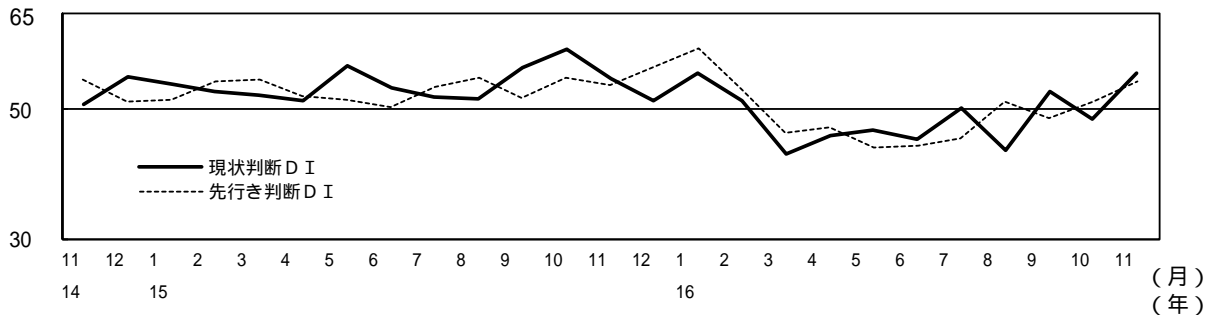


11. 沖縄

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・これまで暖冬傾向で厳しかった衣料品の動きが、気温低下により動き出し、前年同月比で前年をクリアした。しかし、これまでけん引してきたインバウンドの売上が横ばいとなり、客数は増えているが客単価はダウン傾向となっている(百貨店)。
			・今月開催した住宅完成見学会への来場者数が、5月開催時に比べ61%増となっている(住宅販売会社)。
			・全体的には去年より良いが、国内客の個人旅行が減少しているため、現金売上はやや悪くなっている(観光名所)。
	企業 動向 関連		・前年比でみると公共工事向けは減少、民間工事向けは増加、全体で横ばいの状況である(窯業・土石製品製造業)。
			・取扱物量増や新規問い合わせが続いているものの、人材不足のため業務拡大は厳しい状況である。また、10月からの最低賃金アップや、従業員不足を補うための採用条件見直し、現行の従業員待遇の見直しも実施しており、人件費増による収益悪化が継続的に続いている。荷主への転嫁がすぐにはできないこともあり、収益悪化は続く見込みである(輸送業)。
	雇用 関連		・年末に向けてアルバイトの求人は増えてきたが、正社員雇用の求人の動きは鈍くなっている(学校[専門学校])。
		・11月の週平均求人件数は929件だった。8月の871件と比較すると週平均で58件増加した(求人情報誌制作会社)。	
その他の特徴 コメント			・予約件数が前年比120%とやや好調に推移している。10月同様インターネット経由の予約が好調である。これまでの旅行会社提供のパック旅行から、インターネットで飛行機、ホテル、レンタカーをそれぞれ個別で手配する旅行にシフトして来ている傾向にあると予想される(その他のサービス[レンタカー])。 ・人手不足でシフトが組めず、店休日でのしぐ店舗が増えている。特に弊社はサラダバーが売りの店舗があるので、葉物野菜の値上がりで原価も厳しくなっている。米国の次期大統領の当選は決まったが、何か起こるのではという危機感が同業者間でも出ている(その他飲食[居酒屋])。
分野		判断	判断の理由
先行き	家計 動向 関連		・観光客の消費がモノからコトに推移しているのは実感しているが、今年以降も入域客数は安定して動き、県経済に大きな変動はないと考える(コンビニ)。
			・現段階の予約状況から推測できる今後2~3か月後の客室稼働率見込みは、今年よりさらに前年同月比でプラスとなる見込みである(観光型ホテル)。
	企業 動向 関連		・モデルハウスの来場組数や相談件数の引き合いが変わらない(建設業)。
			・公共工事の大型物件の端境期のなか、離島でリゾート関連の民間工事が動き出している。ただ、7月からの集中した台風以降、天候不順が続いており、その影響が出てきている(輸送業)。
	雇用 関連		・年末繁忙期に向けた受注は例年並みで、新規増の依頼は少ない(人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント			・2~3か月先も客単価は上がっており、入込の状況も微増になっているため、売上の面には良化するとみている(ゴルフ場)。 ・競合他社への乗り換えが多く苦戦している。回復させる材料が見当たらないのでこの傾向が続くとみられる(通信会社)。

(D I) 図表24 現状・先行き判断D I (沖縄) の推移 (季節調整値)

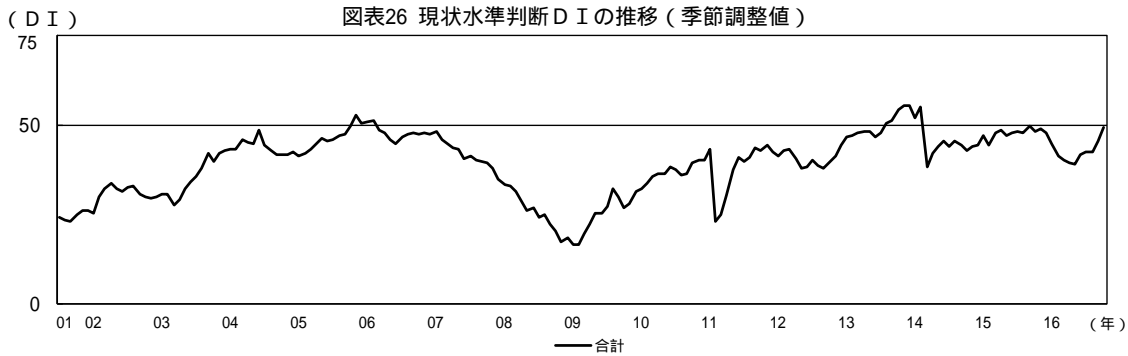


(参考1) 景気の現状水準判断D I

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった(注)。

図表25 景気の現状水準判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
合計		39.0	41.8	42.3	42.5	45.4	49.1
家計動向関連		36.5	40.5	39.8	39.4	42.6	46.8
小売関連		33.0	37.8	36.4	36.1	39.9	45.8
飲食関連		35.3	39.6	37.8	37.3	41.5	42.5
サービス関連		42.4	45.1	45.8	45.3	47.0	48.8
住宅関連		43.0	45.9	45.6	45.2	48.0	50.9
企業動向関連		41.8	40.9	45.1	46.2	48.2	51.7
製造業		40.9	40.1	43.9	44.3	47.4	50.3
非製造業		42.7	41.6	46.1	47.9	49.1	52.7
雇用関連		49.4	52.0	52.8	55.0	57.7	58.9



図表27 景気の現状水準判断D I (各分野計)(季節調整値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
全国		39.0	41.8	42.3	42.5	45.4	49.1
北海道		43.7	44.2	45.0	44.7	45.8	49.5
東北		39.8	37.0	41.4	43.0	46.1	49.6
関東		35.8	39.0	39.7	41.0	43.1	47.2
北関東		33.9	38.6	40.2	41.1	40.4	44.4
南関東		37.0	39.2	39.4	40.9	44.7	48.8
東京都		37.1	39.0	39.8	41.3	45.7	49.5
東海		38.6	42.0	41.1	39.8	46.7	48.9
北陸		41.7	43.1	44.0	41.0	47.5	52.3
近畿		38.2	43.6	42.2	41.2	44.3	48.9
中国		40.2	44.4	46.6	47.1	47.7	49.7
四国		36.2	42.0	40.3	40.8	44.0	49.1
九州		39.1	44.4	43.6	45.2	47.6	50.4
沖縄		47.7	55.0	46.8	52.4	49.2	54.8

(注) 景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

(参考2) 区分変更に伴う参考D I等

有効回答率

	調査客体	有効回答客体	有効回答率
東北(新潟除く)	188人	174人	92.6%
北関東(山梨、長野除く)	129人	114人	88.4%
甲信越	93人	87人	93.5%

図表28 現状判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
東北(新潟除く)		41.3	41.3	44.5	44.7	46.3	51.6
北関東(山梨、長野除く)		38.0	43.2	44.1	45.1	48.4	50.6
甲信越		40.2	41.3	50.2	45.8	47.9	50.5

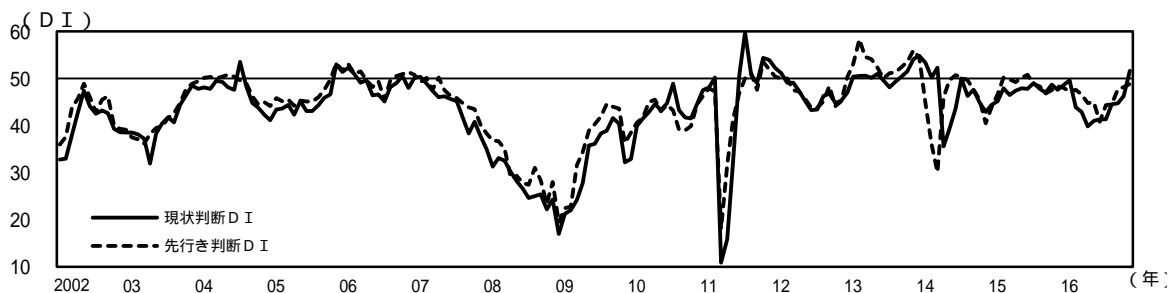
図表29 先行き判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
東北(新潟除く)		40.8	44.3	44.5	47.7	48.2	48.8
北関東(山梨、長野除く)		37.5	49.0	45.9	49.3	48.9	49.4
甲信越		39.7	45.1	47.9	50.7	52.4	49.1

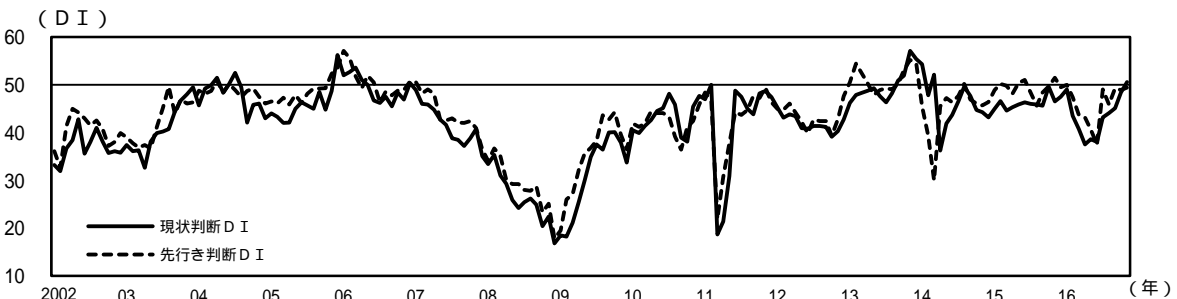
図表30 現状水準判断D I (季節調整値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
東北(新潟除く)		39.9	37.6	42.6	43.1	45.7	49.2
北関東(山梨、長野除く)		35.0	38.6	39.1	41.2	41.0	45.6
甲信越		34.2	38.0	42.0	41.3	41.5	44.8

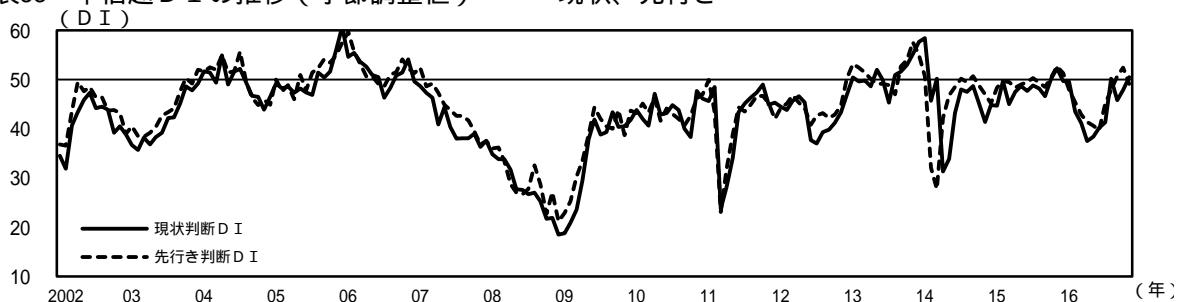
図表31 東北D I (新潟除く)の推移(季節調整値) 現状、先行き



図表32 北関東D I (山梨、長野除く)の推移(季節調整値) 現状、先行き



図表33 甲信越D Iの推移(季節調整値) 現状、先行き



図表34 現状判断D I (原数値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
東北(新潟除く)		43.4	43.0	45.3	43.6	43.4	48.0
北関東(山梨、長野除く)		39.6	45.8	44.2	44.4	45.9	47.4
甲信越		43.2	45.2	49.4	44.4	45.1	45.7

図表35 先行き判断D I (原数値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
東北(新潟除く)		42.1	44.7	44.0	46.8	46.6	47.3
北関東(山梨、長野除く)		40.0	49.8	44.6	48.1	47.8	46.3
甲信越		42.1	46.3	46.3	48.6	49.2	44.3

図表36 現状水準判断D I (原数値)

(D I)	年	2016					
	月	6	7	8	9	10	11
東北(新潟除く)		41.8	39.8	42.8	41.7	44.0	46.1
北関東(山梨、長野除く)		36.7	40.5	40.1	40.2	40.4	43.4
甲信越		36.8	40.6	41.6	41.3	39.8	41.4

甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・繁忙期に入り、客の動きは出ているものの、例年同様で特に多くはない。この時期には年末年始の動きが出てくるはずだが、来店客が少ないうえに、海外旅行相談も少ない。海外旅行は景気とあまり関係ないが、国内旅行の動きが鈍いことは気にかかる（旅行代理店）。	
		▲	・11月は温度変化が激しく、来客数が前月より減少し、忙しい日も少なくなっている。年末までの閑散期で、来客数が減っている（美容室）。	
		○	・消費者はようやく冬支度を始めている。注文服の購買意欲は今一つであるが、修理部門では多少お金がかかっても修理して冬を越そうという客が増えている（衣料品専門店）。	
	企業 動向 関連	□	・米国の情勢が大きく変化し、為替など金融市場も大きく変動しているが、企業の需要に対する慎重な見方は続いている（金融業）。	
		○	・新築工事の許認可が遅れており、着工も遅れているが、小口工事の受注が増えている（建設業）。	
		▲ ×	・物流の量が減ってきている（食料品製造業）。	
	雇用 関連	□	・求人数に変わりはないが、条件も変わらず、もしくは厳しい状況である（人材派遣会社）。	
		○	・求職者が減少し、職業相談のフロアが閑散としていることが時々ある。求人検索パソコンの利用者も減少傾向にある（職業安定所）。	
	その他の特徴 コメント			□：秋のゴルフシーズンで、70歳を超す高齢者の来場が目立ち、大型コンペでの来場は少ないものの、高齢者同士の1～2組の来場がある。健康年齢が高まった感じで、高齢者は元気である（ゴルフ場）。 ▲：販売量の動き、単価共に悪い。単価が悪いということは、夜の動きが悪いということである（タクシー運転手）。
	先行き	分野	判断	判断の理由
家計 動向 関連		□	・客の会話からは、冬の賞与の増額は期待できず、支出にまわすお金を削るという話を聞いている。そのため、今後の景気もあまり変わらないのではないか（百貨店）。	
		▲	・売上は横ばいで推移している。景気が回復しているという実感は乏しい（家電量販店）。	
企業 動向 関連		□	・年末までの受注は確保出来ているものの、年始は受注の谷間となるため、動向が予測出来ない（窯業・土石製品製造業）。	
		○	・米国の大統領選に伴う混乱による円安で、輸入ワインの攻勢はあるものの、国産ワインのPRが幅広く行き渡っており、相変わらず好調を維持すると思われる（食料品製造業）。	
		×	・利益が上がらず、資金繰りは大変である（出版・印刷・同関連産業）。	
雇用 関連	□	・年内は円安傾向が続く見込みで、製造業は人材採用にやや積極的になり始めた傾向がある（民間職業紹介機関）。		
その他の特徴 コメント			○：先行きの予約状況は今月同様に伸びている。例年よりも年末年始の曜日の並びが悪いものの、前年よりも動きがあるため期待をしている（都市型ホテル）。 ▲：12月中旬に大河ドラマが終わり、大河ドラマ館も1月中旬に閉館となるため、落ちてしまうのは目に見えているが、今後もこの盛り上がりを生かしていきたい（商店街）。	